



# 東京歯科大学広報



井出学長（右）、矢崎同窓会会長（左）よりElective Studyの表彰状を授与された第5学年 大竹智久君（中央左）、大津雄人君（中央右）：平成24年7月9日（月）、千葉校舎学長室

## 平成24年度Elective Studyプログラム 選考学生の表彰

平成24年7月9日（月）、昨年度より開催されているElective Studyプログラムに選出された学部学生に対し、井出吉信学長と矢崎秀昭同窓会会長より、各学年の教室で表彰が行われた。対象は、各学年の成績優秀者上位35名の学生の中の応募

者から選考委員会により選考された、学部学生13名である。なお、第1学年の選考学生への表彰は平成24年6月20日（水）から6月22日（金）に実施された、新入生学外セミナーにおいて行われた。

2012年6・7月

255号

### 本号の主な内容

- ・平成24年度Elective Studyプログラム選考学生の表彰…………… 1
- ・水道橋病院4階新口腔外科診療室完成式…………… 3
- ・水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科完成式… 3
- ・平成25年度東京歯科大学入学試験要項…………… 26
- ・平成23年度財務の概要…………… 31

当日は同窓会会長の矢崎先生に千葉校舎においていただき、学部学生各学年の選出者一人ひとりに表彰状が手渡され、激励のお言葉を頂戴した。

昨年からは開始したElective Studyプログラムは、学生が海外の文化や人々に触れ、学生が、歯学の世界のみならず、国際人として成長するべくグローバルな感性を磨くための機会を得る目的でスタートした。第1回の昨年度は、第1学年から第3学年生は台北医学大学口腔医学院の教職員と学生との交流をメインとしたプログラムで台北に1週間滞在した。第4学年から第6学年生はテキサス大学を見学、野口英世先生の別荘などを訪問した。滞在中は現地の文化や言語に触れると共に、現地での診療の現場や教育機関を見学し、それぞれに実り多い研修になった。

本年度のElective Studyは、第1学年から第3学年生は昨年度に引き続き本学の姉妹校である台

北医学大学口腔医学院との交流を中心に行われる。また第4学年から第6学年生は、鹿児島大学との共催のプログラムに参加し、カナダのアルバータやカルガリーを訪れ、現地アルバータ大学の研究室や病院の見学、そして講義の受講などを計画している。

学生たちがElective Studyで国際人としての教養やマナーを学ぶことを含め実り多い時間を過ごしてくれることを期待したい。

○Elective Study参加学生 13名

第1学年	松浦 信孝	真鍋 優
第2学年	倉澤 馨	阪上 隆洋
第3学年	中川 結理	中野 僚子
第4学年	明石 良彦	齊藤 友護
第5学年	大竹 智久	大津 雄人
第6学年	飯田 雄太	覺本 貴仁
	崔 大煥	



矢崎同窓会会長より表彰される第1学年 松浦君：平成24年6月21日（木）、かずさアカデミアパーク



井出学長より表彰される第3学年 中川さん：平成24年7月9日（月）、千葉校舎第3教室



第6学年の表彰式風景：平成24年7月9日（月）、千葉校舎第4教室

## 水道橋キャンパスニュース

### ■水道橋病院4階新口腔外科診療室完成式

水道橋病院4階の口腔外科診療室の改修工事が完了し、平成24年7月17日(火)よりオープンとなった。これに先立ち、平成24年7月6日(金)18時より、完成を記念してテープカットが行われた。テープカットは、金子 譲理事長、井出吉信学長、一戸達也水道橋病院長、矢崎秀昭同窓会会長および株式会社ヨシダの山中一剛代表取締役社長の5名によって行われた。金子理事長は、「口腔外科は、患者のプライバシーにも配慮できるよ



テープカット：平成24年7月6日(金)、水道橋病院4階口腔外科



挨拶する金子理事長：平成24年7月6日(金)、水道橋病院4階口腔外科



水道橋病院4階口腔外科診療室

う新しく生まれ変わった。これまで無かった設備・機器も取り入れ、多くの患者さんにご満足いただけるものと期待している。大いに活用して、より充実した診療を展開していただきたい」と挨拶した。



水道橋病院4階口腔外科診療室

### ■水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科完成式

水道橋病院3階に「高度歯科医療センター・口腔インプラント科」が完成し、平成24年7月12日(木)よりオープンとなった。これに先立ち、平成



テープカット：平成24年7月6日(金)、水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科



水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科ラウンジ

24年7月6日（金）18時30分より、完成を記念してテープカットが行われた。テープカットは、金子 譲理事長、井出吉信学長、一戸達也水道橋病院長、矢崎秀昭同窓会会長および株式会社モリタ製作所の塚本耕二代表取締役社長の5名によって行われた。金子理事長は、「歯科医療の密集した地域にあって、この診療室は本学の特徴を大い



水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科診療室

に発揮していただく場である。施設を大いに活用して、患者さんに喜んでいただける診療ができるよう願っている。年月が経てば施設は古くなっていくが、唯一古くならないのは働いている教職員の皆さんの気持ちである。ぜひこの気持ちを大切にして力を充分発揮していただきたい。」と挨拶した。



水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科手術室

## ■准教授就任のご挨拶



市川総合病院  
内科

荒川 幸喜

平成24年7月1日を持ちまして、東京歯科大学市川総合病院内科学講座・准教授（主任教授：西田次郎先生）を拝命致しました。

私は平成元年に慶應義塾大学医学部を卒業し、母校内科学教室に入局いたしました。慶應義塾大学病院、および埼玉社会保険病院において内科全般の臨床研修を行い、その後慶應義塾大学医学部の腎臓内科に入局し臨床研鑽を積んでおります。

平成8年2月より本学市川総合病院内科にお世話になり、本学学生に対しては、平成8年度より市川総合病院での臨床実習、また平成15年度よりは内科学講座講師として本学での内科（腎臓内科）の講義を担当させて頂いております。市川総合病院においては、内科全般および腎疾患、高血圧症等の臨床に携わり、平成19年6月よりは透析

センター長を勤めさせて頂いております。市川総合病院において全血液浄化法件数、新規の血液透析導入患者も年々増加し、平成23年度においては約80名の新規血液透析導入患者を数えるに至っております。

現在、人口の高齢化・生活習慣病の増加を背景に我が国の慢性腎臓病（CKD）患者数は1,300万人を超え、CKDは21世紀に出現した新たな国民病と考えられています。CKDは透析を必要とする終末期腎不全の原因になるばかりでなく、心血管疾患発症の重要なリスクファクターであることが明らかになっています。地域の各医療機関と連携をとりながらCKDの早期発見・早期治療を行っていきたくと考えております。また地域の基幹病院としてあらゆる腎臓病の治療を網羅し地域医療の充実に貢献することが使命と思っております。

微力ではございますが、東京歯科大学ならびに市川総合病院の発展に全力で頑張りたいと考えております。どうぞ今後とも、皆様方の叱咤激励を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 学内ニュース

### ■第293回東京歯科大学学会例会開催

平成24年6月2日(土)千葉校舎において、第293回東京歯科大学学会例会が開催された。口演27題は第1・2教室で、示説8題は第2ラウンジを会場として各々発表された。午後1時から午後2時まで第1教室において、歯科麻酔学講座の塩崎恵子助教とクラウンブリッジ補綴学講座の荒野太一助教による学長奨励研究賞受賞講演が行われ、午後2時から午後2時30分まで宮城高等歯科衛生士学院教務主任の佐藤陽子先生による「震災から学んだ『決断する』ということ」と題した特別講演が行われた。引き続き午後2時30分から午後5時10分まで同教室において5名の教授による以下の特別講演が行われた。

1. 「糖尿病と歯周病の共同臨床研究及びHbA1cの国際標準化」

武井 泉 教授 (東京歯科大学内科学講座)

2. 「教育と研究そして臨床－その継承と発展－」

末石研二 教授 (東京歯科大学歯科矯正学講座)

3. 「歯科医師の身近な先天異常－遺伝子エナメル質形成不全症」

新谷誠康 教授 (東京歯科大学小児歯科学講座)

4. 「幹細胞と癌」

東 俊文 教授 (東京歯科大学学生化学講座)

5. 「歯周病原性菌のバイオフィルム形成と病原性」

石原和幸 教授 (東京歯科大学微生物学講座)

また、13商社の参加による商品展示が第1ラウンジで行われた。

### ■第6回口腔インプラント学講座セミナー開催

平成24年6月12日(火)午後6時30分より、千葉校舎第2教室において、第6回口腔インプラント学講座主催のセミナーが開催された。今回は、International Team for Implantology (ITI) Fellow (口腔インプラント学・国際チームメンバー)、九州インプラント研究会の松井孝道先生を講師にお迎えして「インプラント周囲炎のリカバリーを考察する」と題した講演が行われた。

現在、インプラント治療は欠損補綴において重要な役割を果たしているが、それに伴いインプラント周囲炎等のトラブルも増加しているのが現状である。インプラント治療に伴う合併症で最も多

いものはインプラント周囲炎であるといわれている。インプラント周囲炎への対処としては、これまでにプラスチックスクレーパー等による機械的清掃やジアミトール(塩化ベンザルコニウム)等による化学的清掃、または、局所的、全身的な抗生剤治療が主であり、現状ではインプラント周囲の汚染物質を完全に除去することは困難である。松井先生は、 $\beta$ -TCP 顆粒による Air Abrasion を用いてインプラント周囲の汚染物質の除去の開発をされた。これにより、インプラント体を傷つけることなく、広範囲にわたり感染源を取り除くことが可能となり、本法を用いたインプラント周囲炎治療の長期経過症例が提示された。当日、会場に集まった60名の受講者にとって、本講演は臨床的にも基礎研究に対する示唆としても、大変有意義なものとなった。



講演される松井先生：平成24年6月12日(火)、千葉校舎第2教室

### ■実験動物供養祭開催

平成24年6月15日(金)午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階の第2ラウンジにおいて、平成



祭文を奉読する井出学長：平成24年6月15日(金)、千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

24年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、井出吉信学長が祭文を奉読された後、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、参列した教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。

### ■父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成24年6月16日(土)午後12時40分より、千葉校舎講堂において、平成24年度父兄会定時総会が開催された。総会には約600名近い保護者が出席した。

総会は、中村 隆父兄会副会長の開会の辞で始まり、本年4月に父兄会長に就任した小林一公会長から新任の挨拶と施政方針などが述べられた。井出吉信名誉会長(学長)から挨拶を頂いた後、第6学年保護者の大矢孝臣氏が議長に選出され、報告・審議事項に移った。

平成23年度会計収支決算、平成24年度父兄会事業計画、会計収支予算案、貸与共済基金の大学への移管、傷害共済基金緊急災害対策準備費の支出(案)などの議案が審議され、いずれも提案どおり承認可決された。引き続いて父兄会役員の任期満了に伴う改選の審議に移り、慣例に従って選考委員会が設置され、同委員会の推薦を受けて平成24年度父兄会役員が下記のとおり選任された。

(業務分担はつぎのとおり)

会	長：小林一公
副 会	長：齋藤 守、中村 隆、森田正純、 宮吉久美
常務理事 (庶務)	：寺本信三、飯島俊一
常務理事 (会計)	：小山 亨、荻原俊美
常務理事 (奨学)	：齋藤 正、高崎一郎
常務理事 (傷害)	：川崎輝子、坂入道子
常務理事 (広報)	：橋本東児、石井俊昭
理 事	：福田神一、中川雅晴、石 和久、 松崎英雄、小林容子、原島 晃、 丹沢朝彦、村上雅一、 瀧上恵美子、藤関雅嗣、 椎貝達夫、清水 泰、山口和彦、 阿部真理、伴野和夫
監 事	：鈴木千枝子、鳩貝尚志

なお、当日は総会に先立ち、午前11時30分より厚生棟1階第一食堂において昼食会を兼ねた「全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会」が行われた。

父兄会定時総会終了後は、午後2時より保護者を対象にした大学主催による修学指導方針説明会が開催され、井出学長から大学の修学に関する総括説明、石井拓男副学長から学生指導の基本方針と水道橋校舎移転に関する事、河田英司教務部長から勉学に関する指導指針、佐藤 亨学生部長から学生生活に関する指導方針について、それぞれの立場から説明が行われた。次いで午後3時30分からは各学年の学年主任あるいはクラス主任が学年別に個々の現状、修学上の注意事項に関する詳細な説明が行なわれた。さらに説明終了後、出席保護者と学年主任・クラス主任との個別面談が実施された。



挨拶を述べる小林一公新父兄会長：平成24年6月16日(土)、千葉校舎講堂

### ■平成24年度緩和ケア研修会開催

市川総合病院は平成20年2月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。がん診療連携拠点病院には、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会が毎年開催することが義務付けられていることから、昨年に続き4回目の研修会を平成24年6月17日(日)・24日(日)の両日に開催された。

がん診療連携拠点病院が行う緩和ケア研修会は、院内だけではなく地域の医療従事者も対象にすることから、学外の勤務医・開業医に対しても県や医師会・歯科医師会を通して広く募集を呼び掛け実施された。

参加者は学内外から医師19名、歯科医師10名、薬剤師2名、看護師5名、の合計36名と参加者に対して、7名のファシリテーターを迎えての研修

会となった。

研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、講義では「緩和ケア概論」や「がん性疼痛」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「精神症状（抑うつ、せん妄）」、「コミュニケーション」について解説され、「疼痛事例検討」や「オピオイドを処方するとき」、「コミュニケーション」、「地域連携」ではグループ討議やロールプレイが熱心に行われた。緩和医療は患者やその家族の辛さに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有効であることから、今後のがん診療連携拠点病院としての役割を担って行く予定である。



講義風景：平成24年6月17日（日）、市川総合病院2階講堂



グループ演習風景：平成24年6月24日（日）、市川総合病院2階講堂

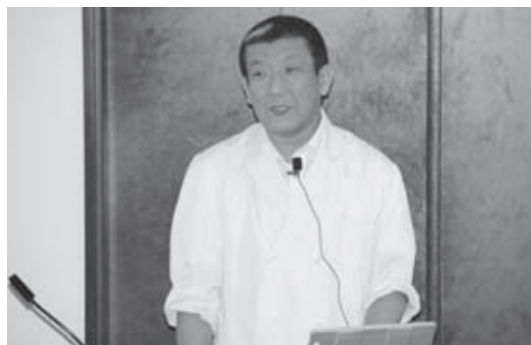
### ■第114回歯科医学教育セミナー開催

平成24年6月18日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第114回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「さいかち坂校舎の現状と基礎理解度テスト結果について」と題し、今年度より新入生を迎えたさいかち坂校舎の状況につ

いて橋本正次教養科目協議会幹事より、新入生を対象に実施した基礎理解度テストの結果と分析について、望月隆二教務副部長より報告がなされた。

はじめに、橋本教養科目協議会幹事により、写真を中心に、学生生活をはじめとする、さいかち坂校舎の現状や問題点について説明がされた。来夏、新館校舎（仮称）を中心とした移転を迎えるにあたり、移転後の状況や想定される課題等を全学的に共有できた点で非常に良い機会であった。

続いて、望月教務副部長より、新入生を対象に実施された基礎理解度テストについて説明があった。科目別、入試種別や、過去の結果との比較といった様々な観点から分析がされた。最終的に、学生に対するフォローの必要性を挙げ、その点については、8月に実施される、教育ワークショップ報告会においてさらに掘り進めたものを発表するとのことであった。



説明する望月教授：平成24年6月18日（月）、千葉校舎第2教室

### ■平成24年度新入生学外セミナー実施

今回で14回目を迎える平成24年度新入生学外セミナーが、平成24年6月20日（水）から6月22日（金）までの2泊3日の日程で、木更津市にある「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的として開催されている。

新入生は6月20日（水）午前9時にさいかち坂校舎を出発する予定であったが、前日に季節外れの台風が通過した影響で交通機関に遅延が生じ40分遅れの出発となった。

午前11時10分から開講式、11時20分より高添一郎名誉教授による「野口英世に学ぶ」と題した講演が行

われた。昼食後、午後12時50分より警視庁神田警察署生活安全課 飯田 進警部による「歯科医師を志すフレッシュマンに向けて」と題した講演といざという時のために役に立つ護身術の実演が行われた。午後1時40分からは、平田創一郎准教授から「コンセンサスゲーム」の説明、午後3時30分からは、橋本正次教養科目協議会幹事から「問題点の解決法、レポートのまとめ方」について講演が行われ、午後4時40分から1回目のグループ討議に入った。グループ討議は、新入生を12のグループに分け、与えられたテーマに基づきグループ対抗で実施されるディベートの情報収集等が行われた。午後6時50分からは、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、フォーク、ナイフの使い方や食中のエチケットなど細かなマナーについての説明を受けた。また、テーブルに同席した教職員やクラスメイトと食事を楽しんだ。

2日目の6月21日(木)は、午前9時より2回目のグループ討議を行い、11時10分からは「信頼される振る舞い」と題した講演を人材コンサルタントの山下輝江先生からご指導をいただいた。昼食後に3回目のグループ討議を行い、グループ発表

に向けた資料収集や発表の内容が話し合われた。その合間を縫って3グループごとに記念写真を撮影した。午後4時30分から大久保 剛千葉病院内科教授による「身体と心の健康管理」、本学卒業生で同窓会会長の矢崎秀昭先生から「臨床医から新入生へのメッセージ(歯科医療の現場から)」と題した三つの講演が行われた。その後、午後6時30分から懇親会が行われ、久保周平学年副主任から校歌の指導が行われ、代表学生が校歌を合唱した。終盤にはビンゴゲームで盛り上がり、先生方や友人と親睦を深めた。懇親会終了後、新入生たちは夜遅くまでグループ発表の準備に取り組んでいた。

最終日の6月22日(金)は、午前9時より3会場に分かれ「公開ディベート」を行った。各会場とも例年以上に白熱した議論が展開され、時間の延長をした会場もあり充実した「公開ディベート」となった。

最後に河田英司教務部長による閉講の辞により、3日間に亘るセミナーを終了した。

例年通り帰路に市川総合病院に立ち寄り、オーラルメディスン・口腔外科学講座の片倉 朗教授か



神田警察署員が護身術を実演：平成24年6月20日(水)、かずさアカデミアパーク



テーブルマナーの席で、井出学長(右)と懇談する新入生：平成24年6月20日(水)、かずさアカデミアパーク



活発な意見交換が行われたグループ討議：平成24年6月20日(水)、かずさアカデミアパーク



山下先生(右)から挨拶について指導を受ける学生：平成24年6月21日(木)、かずさアカデミアパーク



ら病院の概要説明を受け、同講座のスタッフの先導により病院施設を見学して、新入生学外セミナー並びに市川総合病院見学の全日程を終了した。



コンセンサスゲームで最優秀賞に選ばれたグループ：平成24年6月21日（木）、かずさアカデミアパーク



図や表を使い分かりやすく説明する学生：平成24年6月21日（木）、かずさアカデミアパーク

### ■平成24年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年6月25日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階A教室において、平成24年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「接遇の基本について」と題して、本学国際渉外部の佐藤憂子事務員を講師とし、接遇の必要性を学んだ。

佐藤事務員は、日本航空株式会社での客室乗務員の経験を踏まえ、同社の客室乗務および顧客サービス向上の実例を示しながら、訓練の必要性について解説した。また、医療現場における接遇について定義し、患者から選ばれる医療機関になるためには、基本を踏まえ部署ごとに応用した接遇が不可欠であると述べ、接遇マナーの基本的5大要素について具体的に説明した。清潔で汚れない白衣・制服・靴の着用、名札の着用、頭髮等の「身だしなみ」、患者へのおもてなしの心の表現であり、第一印象を決定付ける瞬間でもある「挨拶」、立ち姿、歩き方、物の渡し方、廊下や化粧室で患者と一緒に立った時の立ち振る舞い等、誠実に信頼のおける「態度」、大切な人を思い出して心のこもった笑顔を作る「表情」、専門用語を用いず、正しい敬語で分かりやすい「言葉使い」の5つである。これらを踏まえ、常に患者の目線・立場で考え、患者の心に寄り添うような聴き方・話し方を心がけたホスピタリティーの追及が、今後の病院の課題であると述べた。

また、研修の中で、相手の目を見ながらの挨拶・会話、角度により使い分ける御辞儀を、解説を交えながら実践した。

本研修で学んだことを活かし、患者から選ばれた水道橋病院を目指し、全教職員が一丸となって接遇に取り組もうと、気持ちを新たにしたい研修会であった。



講演する佐藤事務員：平成24年6月25日（月）、水道橋校舎13階ルームB

### ■「大学・同窓会共催学年代表者会」を開催

「大学・同窓会共催学年代表者会」は、平成24年7月1日（日）、本学さいかち坂校舎4階 第1講義室にて開催された。本年は大学と同窓会の共催という形で行い、各卒業年次の学年代表者約60名の参加があり、大学に対する関心の高さが伺えた。

大学からは金子 譲理事長、井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、石井拓男副学長、高野伸夫千葉病院長、一戸達也水道橋病院長、河田英司教務部長、佐藤 亨学生部長、橋本正次教養科目協議会幹事が出席。同窓会からは、矢崎秀昭会長、宮地建夫副会長、浮地文夫副会長、佐瀬俊之副会長、梅村長生副会長、高橋義一専務理事をはじめ役員の方、若手ネットワーク委員の先生方が出席した。代表者会開始前には、今年4月に開校した本会会場のさいかち坂校舎の見学が行われた。

会は金子理事長、矢崎同窓会会長のご挨拶で始まり、続いて井出学長から「大学移転について」というテーマで水道橋移転事業の現在の状況、歯科大学を取り巻く環境（歯科医学教育、歯学部の定員・授業料問題等）、研究、国際交流などについて資料を元に詳細が説明された。石井副学長からは「学事について」の報告があり、教育の現状が紹介された。最後に一戸水道橋病院長から「水道橋病院改装」について説明があった。同窓会側で事前に集約していた質問に対し、井出学長が説明の中で答え、最後にまとめとして金子理事長から法人の機能・役割並びに中長期ビジョンについてのお話があった。



学年代表者会で挨拶をする金子理事長：平成24年7月1日（日）、さいかち坂校舎4階第1講義室



「大学移転について」を説明する井出学長：平成24年7月1日（日）、さいかち坂校舎4階第1講義室



講演を聞く参加者：平成24年7月1日（日）、さいかち坂校舎4階第1講義室

学年代表者会終了後、東京ドームホテルにて開催された懇親会では、昭和17年卒業の長谷川正康先生より乾杯のご発声を頂戴し、世代を超えた参加者各位が和やかに歓談、大学・同窓会共催学年代表者会は盛会裡に終了した。

### ■第6回インプラント3病院合同勉強会開催

平成24年7月3日（火）水道橋校舎13階において、「第6回インプラント3病院合同勉強会」が開催された。本勉強会は、歯科インプラント治療に関する知識の共有と臨床技術の向上を目的に、千葉病院口腔インプラント科、水道橋病院口腔インプラント科、市川総合病院オーラルメディスン口腔外科の3施設の医局員が集まり、隔月の持ち回り制で、平成23年2月より開催されている。

今回の参加者は、臨床研修歯科医2名と歯科技工士2名を含む45名であり、田口達夫講師の進行のもと松崎文頼・高梨琢也両助教の発表と活発な質疑が行われた。松崎助教からは「インプラント埋入手術中にインプラント体の破折をきたした症例」についての発表があり、破折の原因や現在のインプラントシステムの問題点についてのディスカッションが行われた。また、高梨助教からは「顎堤吸収の著しい下顎多数歯欠損をインプラントオーバーデンチャーで対応した症例」についての発表があり、今後、保険導入に伴う症例の増加が予想されるインプラントオーバーデンチャーの外科手技や補綴手技についてのディスカッションが行われた。

本勉強会は、学内関係者であればどなたでも参加可能なオープンな勉強会となっている。次回は平成24年10月2日（火）午後7時より、千葉校舎第2教室にて、九州大学准教授 松下恭之先生を演者にお迎えして開催予定である。



インプラント3病院合同勉強会風景：平成24年7月3日（火）、水道橋校舎13階ルームB

### ■第3回3病院合同口腔がんカンファレンス開催

平成24年7月9日(月)に水道橋病院において、第3回3病院合同口腔がんカンファレンスが開催された。これは東京歯科大学の3病院(千葉病院、市川総合病院、水道橋病院)で口腔がんに関する共通認識を持ち、より連携を強めていくことを目的として企画された勉強会である。今回第3回目のテーマは「歯肉がん」であった。まず冒頭に特別講演として市川市で開業されている秋本広貴先生に「口腔癌を体験して－患者の立場になった歯科医師より－」という題名でご講演をいただいた。続いてケースカンファレンスに移り、口腔健康臨床科学講座口腔外科学分野の山村哲夫先生から「局所切除での対応症例」を、口腔外科学講座の森川貴迪大学院生から「切除範囲の設定に苦慮した下顎歯肉癌の1例」を、そしてオーラルメディスン・口腔外科学講座の齋藤朋愛レジデントから「頬粘膜下顎歯肉癌の1例」をそれぞれ発表された。また各々の発表で臨床的経過を述べた後、臨床検査病理学講座の先生から詳細な病理組織学的所見について述べていただき、各症例の治療方針、手術法の選択その後の経過について活発な質疑応答



質問をする市川総合病院臨床検査科の田中陽一教授：  
平成24年7月9日(月)、水道橋病院13階会議室



特別講演をされた秋本先生(左)と準備をされていた今井洋先生(右)：  
平成24年7月9日(月)、水道橋病院13階会議室

がなされた。本勉強会は4か月に1回の開催で、3病院の世話人が交代で幹事を務める。次回の開催は平成24年11月で、テーマは「頸部リンパ節転移」、場所は市川総合病院で行われる予定である。

### ■平成24年度水道橋病院臨床研修歯科医OSCE開催

平成24年7月7日(土)午後2時より、水道橋病院において、平成24年度臨床研修歯科医を対象としたOSCE(客観的臨床能力試験)が開催された。今回の受験者は、水道橋病院の臨床研修歯科医15名の他、東京都健康長寿医療センターから1名参加があり、合計16名であった。

院内に4か所のステーションを設置し、治療方針の説明を1課題と技能系課題を3課題の計4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3か月経過したところで、これまでの研修の成果と知識をもとに各課題に取り組んだ。受験者は課題ごとに評価者ならびに模擬患者から評価を受け、さらに各課題終了時には、評価者ならびに模擬患者からのフィードバックを受けた。後日、受験者に評価の個別集計結果を配付した。



課題に取り組む受験者：平成24年7月7日(土)、水道橋病院2階総合診療室



課題終了後のフィードバック：平成24年7月7日(土)、水道橋病院2階総合診療室

## ■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成24年7月8日(日)午後1時より、7月28日(土)は午後2時より水道橋校舎13階で開催された。

ガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況等、平成25年度入学試験の概要等について説明があり、入試科目のポイント説明では参加者が大変熱心に聞き入っていた。

また、毎回異なる模擬授業が実施され、8日(日)には口腔超微構造学講座の山本 仁教授による「歯ができるしくみ ～歯のでき方を知れば歯はつくれる?～」、28日(土)には微生物学講座の石原和幸教授による、「口の中のミクロの世界 –口腔細菌と健康–」と題した授業が行われた。

そして、今年度から希望者による見学がさいかち坂校舎と水道橋病院で行われ、両日とも多くの方が訪れた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。両日合わせて340名もの参加があり、大盛況なガイダンスとなった。

次のガイダンスは、8月25日(土)に水道橋校舎13階で、実施する予定である。



模擬授業風景：平成24年7月28日(土)、水道橋校舎13階ルームA

## ■千葉東高校からのインターンシップ

平成24年7月13日(金)午後2時30分より、千葉県立千葉東高等学校の1～3年生と進路指導部の教諭の全23名がインターンシップとして、大学見学を訪れた。まず、第2教室において、かつて千葉東高校において教壇に立ったことがある、生物学研究室の遠山光則客員教授より挨拶があっ

た。次に、口腔外科学講座の引田正宣レジデントにより、「歯科医師とは…」と題し、専門分野をはじめとする「歯科」、そして「歯科医師」という職業について、多岐にわたり説明がなされた。実際の治療や手術の様子を撮影した動画を交えた説明で、高校生にも分かりやすい内容であった。引き続き、引田レジデントの案内で、病院棟の手術室の見学が行なわれた。当日は偶然にも手術が行われており、手術の緊迫感を間近で感じることができ充実したものであった。

口腔科学研究センターでは、石原和幸教授と田所克己主任研究技術員による体験実習、見学が行なわれた。参加者自身の口腔内の菌を採取し顕微鏡で見る内容で、皆興味深げに実習に取り組んでいた。続いて、歯科衛生士専門学校と解剖標本室の見学が行われた。解剖標本室では、解剖学講座の坂 英樹講師の説明により見学が行われ、本学ならではの豊富な標本の数々を皆食い入るように眺めていた。

最後に、第2教室に戻り日塔慶吉教務課員より、東京歯科大学の概要について説明がなされ、続いて千葉東高校OGで第6学年の角山明日香さんより本学での学生生活や自身が大学を選択した際の経験等について話をされた。参加した高校生からは設定時間を大幅に超過する程に、積極的な質問が多数なされた。

今回で6回目を迎えた千葉東高校のインターンシップであったが、高校生たちに大変好評であり、今後も高大連携の取組として引き続き協力していく予定である。



説明風景：平成24年7月13日(金)、千葉校舎第2教室

## ■平成24年度 歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、井出吉信学長、加藤靖明大学事務

部長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

7月18日(水)

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」  
花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」  
福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」  
鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」  
井上 裕 先生 印西市「印旛霊園」

7月19日(木)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

7月20日(金)

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

7月23日(月)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」  
奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」  
杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」  
松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」  
高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」



高山紀齋先生の墓参を行う井出学長：平成24年7月23日(月)、杉並区「文殊院」

### ■平成24年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年7月23日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、カルテおよび関係書類の記載の充実に関する研修として、「カルテおよび関係書類作成の際の注意点」と題して、水道橋病院の杉戸博記医事課長および山根理恵子主任薬剤師が講演を行った。

杉戸医事課長から、まず法令上作成保存が求められているカルテおよび関係書類について解説がなされた。カルテに関しては、保険医の立場からも含めて、根拠法令や定められた記載事項について説明がされた。また、関係書類に関しては、歯科技工に係る指示書、(歯科衛生士業務)記録、照

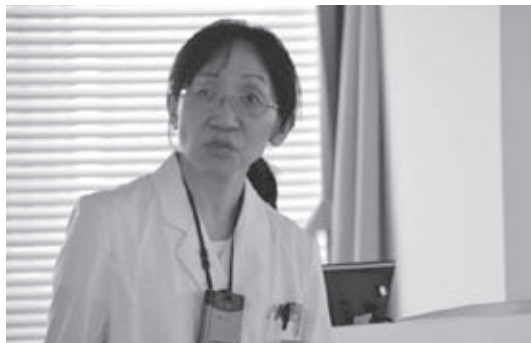
射録について同様の説明がなされ、各々の関係書類の所定記載項目を歯科医師・医師が確実に記載しなくてはならないことが強調された。さらに、病院・保険医療機関として定められている書類等についても解説がなされ、病院内で作成される各種書類の記載の重要性について、法令上の作成義務の有無に関わらず、適切に行うことが重要である旨も強調された。その後、保険診療に関する主な法令、告示、通知について解説がなされた。保険診療に関する主な法令等が掲載されている「歯科点数表の解釈(社会保険研究所発行)」の見方について、事例を交えて本書籍の記載項目の構造が説明された。

続いて、山根主任薬剤師から、処方変更等となった事例について解説がなされた。具体的には、全身疾患のため併用禁忌処方があったもの、服用に際して用法・用量が適切でなかったもの等について、処方変更となった理由等の詳細な説明がなされた。

水道橋病院では、これまでもカルテ記載に関する研修会等を行ってきているが、歯科医師・医師のみならず、他の医療関係職種が記載する書類に



講演する杉戸医事課長：平成24年7月23日(月)、水道橋校舎13階ルームB



講演する山根主任薬剤師：平成24年7月23日(月)、水道橋校舎13階ルームB

についても、法令上の規定等に基づき、記載の充実化を図らなければならないことが、再認識させられた。

### ■科学研究費使用ルール説明会開催

平成24年7月24日(火)午後5時30分より、千葉校舎第2教室において、「科学研究費使用ルール説明会」が開催された。これは本学の科学研究費取得者が、研究費の使用ルールを守り適正に使えるよう、毎年この時期に開催しているものである。本年は、科学研究費取得者のみならず、全校舎の応募資格のある研究者に出席をよびかけ実施された。

説明会は、研究部長・水口 清教授の挨拶にはじまり、科学研究費の概要、年間スケジュール、直接経費の使用ルール、物品等調達手続きについて、研究部と大学会計課の担当者より説明があった。また、不正防止推進室から、不正使用防止の重要性についてあらためて研究者に理解を求めた。最後に研究部副部長・吉成正雄教授から、来年度科学研究費の多数採択をめざして「科研費獲得プロジェクト」を立ち上げる旨の報告があった。

当日は、市川総合病院、水道橋校舎へもテレビ会議システムで配信され、3校舎合計で91名の研究者が出席し熱心に説明に耳を傾けていた。

なお、この会に先立つ7月に冊子「公的研究費の適正な使用のために」が3施設の全研究者に配付された。これは本学で定められている「東京歯科大学における公的研究費の管理・監査実施基準」、「同不正防止計画」、「同行動規範」とともに、根拠法令等として「補助金適正化法」と文部科学省の「公的研究費の管理・監査のガイドライン」を掲載している。本学研究者に公的研究費適正使用を



説明会会場風景：平成24年7月24日(火)、千葉校舎第2教室

網羅的、理論的に理解してもらうため、不正防止推進室としてとりまとめたものである。

### ■第29回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成24年7月28日(土)・29日(日)、さいかち坂校舎において、第29回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、歯科医師臨床研修制度における「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」に則り、指導歯科医講習会としての認定を受け、一般社団法人歯科医療振興財団と共同開催したものである。

今回は、本学専任教員および全国の歯科医院の勤務医合わせて40名が受講した。ワークショップは8つのセッションで構成され、講義、5グループに分かれての討議・発表を通じて、カリキュラムの立案、目標に則った学習(研修)方法の立案および評価法の策定等について研修した。受講者からは、「カリキュラムの作成における適切な評価方法を設定する大切さを理解できた」「今後は指導医の視点で研修医制度を理解し、より良い臨床研修が行えるように努力したい」等の感想が寄せ



グループ討議を行う参加者：平成24年7月28日(土)、さいかち坂校舎2階第2講義室



受講者およびスタッフ：平成24年7月28日(土)、さいかち坂校舎エントランス

られた。最後に、受講者に東京歯科大学学長、歯科医療振興財団理事長、厚生労働省医政局長連名の修了証が授与され、2日間の日程を終了した。

今回、多数の受講申し込みがあったことを受け、次回のワークショップを9月に開催する予定である。

## ■がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 平成24年度初期研修開催

平成24年7月31日(火)、8月1日(水)の2日間、東京歯科大学千葉病院と市川総合病院でがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース」で履修中の本学大学院生が集まり、初期研修が開催された。これは本学がんプロが毎年行っている事業であり、各学年の大学院生が集まり口腔がん専門医としての知識を深めることを目的として行われている。本研修内容は大学院生による履修状況の報告と相互討論、そして各分野の先生方による講義で構成されている。野村武史コーディネーターの司会進行のもと、1日目は井上孝大学院研究科長による「がんプロ大学院生に臨むもの」と題した訓示に始まり、口腔外科学講座 柴原孝彦教授による「頸部郭清術の基本的な概念」、口腔がんセンター 山本信治講師による「海外(北京大学)における口腔癌治療」と題した講演が行われた。そして午後は本学がんプロ修了生による卒業後の進路について伊川裕明先生、大野啓介先生、斎藤寛一先生にそれぞれ出向先での現在の仕事の内容が話された。2日目は口腔がんセンター長 片倉朗教授より、「口腔がんセンターの今後の展開」につい

て、放射線科 尾尻博也准教授から「口腔癌の画像診断」、臨床検査科 田中陽一教授から「口腔がんと病理 細胞診、組織診を有効に使うために」と題した講演をして頂いた。午後は各大学院生がそれぞれの研究成果、履修プログラムの進捗状況が発表され、これに対し活発な質疑応答がなされた。2日間にわたる大変密度の濃い、充実した研修であった。



大学院生によるフリーディスカッション：平成24年8月1日(水)、市川総合病院第1会議室



2日目講師陣とがんプロ大学院生：平成24年8月1日(水)、市川総合病院第1会議室

## 大学院ニュース

### ■第349回大学院セミナー開催

平成24年6月7日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第349回大学院セミナーが開催された。今回は、本学生化学講座教授の東俊文先生を講師に迎え、「幹細胞研究の基礎」と題した講演を伺った。

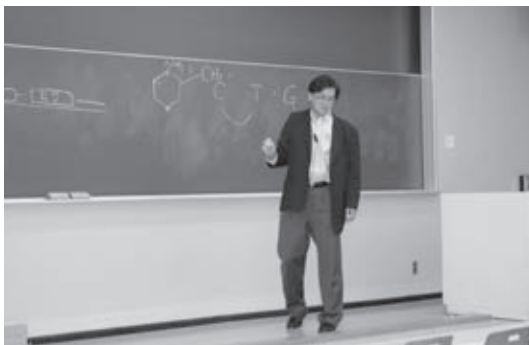
幹細胞はその増殖力と分化能を利用することにより組織を再生する源になると考えられており、その能力を人工的に応用することにより医療への応用が実現されつつある。究極の幹細胞は胎児か

ら得られる万能細胞で、一個の幹細胞からすべての組織へ分化しうることが確認されている。これをEmbryonic stem cell (ES) 細胞と呼ぶ。さらに近年では、いわゆるinduced pluripotent stem cell (iPS) 細胞という万能細胞を人工的に作成する技術が確立されます再生医療に対する期待が高まりつつある。この発展の中で特に注目される事実がEpigeneticsである。Epigeneticsが脚光を浴びたのには伏線がある。すなわち遺伝子は変化しないのに発現の仕方が大きく異なることであ

る。しかし分化した体細胞の核を取って、これを受精卵に移植するとクローン動物が発生することから、明らかに細胞内外の環境が遺伝子発現のなかで重要な役割をはたしているし、癌微小環境と幹細胞微小環境に類似点があることを示唆している。

一方、iPS細胞の開発の少し前になるが、この幹細胞が癌の発生母地であるという様々な証拠が見つかり、癌幹細胞という概念が定着した。幹細胞は増殖力を備えているが、そこに遺伝子の傷が生じ無軌道な増殖力を得ると癌となる。したがって幹細胞の存在は組織再生修復という生命体維持のための重要なバックアップ細胞であると同時に癌の発生母地という生命体の破綻の原因となる危険な細胞でもある。

癌の治療法の開発は常に医学における最も重要な課題であり続け、現在もなおその地位は揺らいでいない。幹細胞の研究が多くの注目を集めると必然的に、幹細胞の性質と癌の関係を解明しようとする研究もすぐに始められ、現在大きな成果が得られつつある。



講演する東教授：平成24年6月7日（木）、千葉校舎第5教室

### ■第350回大学院セミナー開催

平成24年6月14日（木）午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第350回大学院セミナーが開催された。今回は、武庫川女子短期大学教授の脇谷滋之先生をお迎えして、「細胞移植による骨軟骨修復」と題した講演を伺った。

関節軟骨損・傷は自然修復が期待できず放置すると変形性関節症になると考えられる。従来、このような軟骨損傷に対する手術方法としては骨髄刺激法が行われてきた。近年は硝子軟骨による修復を目指して自家骨軟骨柱移植法であるモザイク

プラスチック、あるいは自己の関節軟骨を採取して軟骨細胞を分離培養後に損傷軟骨部に移植する自己培養軟骨細胞移植法が行われるようになってきた。両方法とも正常軟骨組織を採取して移植するため欠損が生じるという問題がある。1999年、BMSCから、内胚葉由来である肝細胞、外胚葉由来である神経細胞が分化誘導されること（分化転換）が報告され、間葉系のみならず、あらゆる組織再生の細胞源として注目されている。この細胞の利点は、自己細胞を局所麻酔で採取することが可能であり容易であること、および細胞の分化能を維持したまま *in vitro* で細胞を増殖させることが可能であることである。そのため臨床応用が容易である。骨、軟骨の再生のみならず、皮下組織、神経、大血管の内皮、心筋梗塞部の再生、末梢循環障害の時の小血管再生促進など、さまざまな応用が考えられている。

ヒトに移植する細胞を製造するには、ヒト移植用細胞培養施設 (Cell processing center : CPC) が必要である。その建築に莫大な費用がかかるのみならず、運用も困難である。これまで全国に約80のヒト移植用細胞培養施設が設置されたが、実際に運用されているのは20弱である。多くは維持運用の困難さ、すなわち維持費用の捻出、高度の技術者の維持、バリデーシンの困難さなどによる。移植細胞培養依託は、以前は薬事法違反であった。平成22年3月30日、医政局長通知「医療機関における自家細胞・組織を用いた再生・細胞医療の実施について」が出され、アカデミア間での細胞培養の依託が認められたので、我々は、CPCのない大阪市立大学、兵庫医大の患者の骨髄液を阪大MTRに送り、培養増殖させ、各施設に送り返し移植を行う、依託培養システムの構築



講演される脇谷教授：平成24年6月14日（木）、千葉校舎第5教室



を計画した。このシステムが開発され細胞培養依託のプロトタイプとなり、全国に広がり細胞依託培養が盛んになれば、現在利用されていないCPCの利用促進につながる。

### ■第351回大学院セミナー開催

平成24年6月21日(木)午後5時40分より、第5教室において、第351回大学院セミナーが開催された。今回は、東京理科大学総合研究機構教授の辻孝先生をお迎えして「未来の歯科治療としての歯科再生医療」と題した講演を伺った。

辻教授は平成21年より本学口腔科学研究センターの客員教授として毎年研究の御指導を頂いており、歯の再生、毛髪再生では世界のマスコミが取り上げる第一人者の研究者である。講演は、まず基本的な再生医療論から始まり、現在話題となっている「幹細胞移入療法」も歯周治療再生や骨再生に研究応用が進められたが、歯科再生医療の目標は、喪失した歯を再生により取り戻す「歯の再生治療」であることを強調された。この歯の再生治療は審美的、生理的、機能的にも完全な回復につながる新たな生物学的治療技術で、30年来、常に歯科領域の研究者の興味の対象であったが、説得力のあるデータを出した研究グループはなかった。しかし、辻先生のグループは、歯胚を再生するための三次元的な細胞操作技術である「器官原基法」を開発して、脚光を浴びた(Nat Methods,2007.)。この再生歯胚を、生体の歯の喪失部位に移植すると、再生歯が萌出して、咬合し、歯槽骨の改造能を持つ歯根膜ができ、侵害刺激に対しても反応することを報告した(PNAS,2009.)。さらに、辻先生のグループでは、再生歯胚から歯と歯根膜および歯槽骨を有する再生ユニットを作

ることにも成功し、骨も歯もないところへの移植の可能性を示唆した(PLoS ONE,2011.)。最後に今後の臨床応用への可能性を話された。今回のセミナーを通じて、大学院生が研究を進める上での多くの示唆と、大学における研究拠点の形成の必要性を痛感した。さらに、発生病態学を受講中の第三学年の学生も参加し、100名を超える聴講者となり、大変活気の有るセミナーとなった。

### ■第352回大学院セミナー開催

平成24年6月28日(木)午後5時40分より、第5教室において、第352回大学院セミナーが開催された。今回は、本学大学院研究科長、臨床検査病理学講座主任教授の井上孝先生を講師に迎え、「再生の基礎、病理学的観点から」と題した講演を伺った。井上教授は、30年来「歯牙および歯周組織の創傷の治癒、再生および誘導」を研究テーマにされており、本年度大学院セミナーで取り上げているテーマ「再生」について、病理学的観点から多くの研究業績を交えながら講演された。講演は、まずFDIが考える今後の歯科界の中で、再生医療が大変重要な位置を占めるというお話から始まり、生体は、自己制御、自己認識、自己再生により恒常性の維持が保たれているという大原則を説明された。次に、自己再生の時に集約となる各臓器、各組織における細胞の特徴、再生の一般原則、再生に影響を与える因子、歯牙および歯牙支持組織の再生およびそれを阻害する因子について解説された。最後に再生医療の応用について、臓器再生療法と細胞移入療法の問題点に触れられてた。これら多くの基礎的内容は大学院生が学位論文のテーマを与える際に大変重要なことであり、参加者は、講演中筆記を取りながら、講演を



講演される辻教授：平成24年6月21日(木)、千葉校舎第5教室



講演する井上教授：平成24年6月28日(木)、千葉校舎第5教室

真剣に拝聴していた。講演後には個別に多くの大学院生が質問に来て、自分の研究テーマの確認等を行った。

### ■第353回大学院セミナー開催

平成24年7月5日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第353回大学院セミナーが開催された。今回は、本学歯周病学講座教授の齋藤 淳先生を講師に迎え、「歯周組織再生の現在と未来」と題した講演を伺った。

今日において、歯周病は口腔内だけでなく、全身疾患との関連性が解明されてきており、歯周病原細菌による全身疾患への影響について様々な研究が行われている。歯周病原細菌と宿主の相互作用の解明が進む一方で、歯周病の治療の主体はバイオフィルムの機械的破壊にとどまっている。歯周基本治療としての非外科的治療は、病原因子やリスクファクターのコントロールに効果を発揮しますが、中等度以上の歯周炎では歯周外科治療が選択肢の一つとなる。慢性炎症が健康に及ぼす影響が大きく取り上げられるようになった現在、外科的アプローチを含めた的確な歯周治療の重要性は高まっている。

従来、東京歯科大学歯周病学講座では、生体内における歯周組織再生の研究を行ってきた。現在組織再生誘導法(GTR法)が示した歯周組織再生の可能性は広がりを見せ、エナメルマトリックスタンパク質(EMD)の応用も一般的になった。

また歯科の分野においても近い将来行われるであろう組織幹細胞を使用した治療や、FGF2(塩基性線維芽細胞増殖因子)などといった増殖因子の併用は、今後の再生治療における重要なテーマになるであろうと予想される。すでにアメリカな



講演する齋藤教授：平成24年7月5日(木)、千葉校舎第5教室

どの外国においてはFGF2を使用した歯周組織の再生法が臨床応用されており、増殖因子を使用した再生治療が行われている。しかしながら、日本ではKCB-1D(ヒト型bFGF)が追加試験になるなど厚生労働省の認可が受けておらず、歯科における再生療法の分野で海外に遅れをとっている。

歯周組織再生に関する研究は今後さらに続けられていき、それによるさらなる再生治療が期待される。

### ■第354回大学院セミナー開催

平成24年7月12日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第354回大学院セミナーが開催された。今回は東京女子医大先端生命科学研究所 大和雅之教授をお迎えして「再生医療本格化のための細胞シート工学」と題した講演を伺った。

解熱剤等の対症療法的な薬物治療やガン治療等で見られる切除中心の外科治療とは異なり、根治治療を可能にすることが期待されている再生医療が、近年大きな注目を集めている。再生医療は、幹細胞生物学と培養系で組織構造を再構築する組織工学の近年の大きな進展により、すでに一部の領域ではヒト臨床応用が始まっている。本講演では、我々が体系的に開発に取り組んできた次世代組織工学技術である細胞シート工学とその成果を紹介いただいた。

たとえば我々は、角膜移植が必要な角膜上皮幹細胞疲弊症の治療を目的として、角膜上皮幹細胞が局在化する角膜輪部上皮から単離した角膜上皮幹細胞を我々が開発した温度応答性培養皿上で培養した後に移植可能な培養角膜上皮細胞シートとして回収し移植に供している。十分な動物実験の後に、2002年から大阪大学医学部眼科と共同でヒト臨床研究を開始している(西田幸二教授らとの共同研究)。またスティーブンス・ジョンソン症候群や眼類天疱瘡などの重症例では他家細胞を高頻度で拒絶するため、自己口腔粘膜上皮細胞を用いて作製した培養上皮細胞シートを用いた臨床にも成功している。これら上皮細胞シートは容易に角膜実質に生着し、縫合なしの移植が可能である。自己口腔粘膜上皮細胞を用いて作製した培養上皮細胞シートによる角膜上皮幹細胞疲弊症の治療は女子医大発ベンチャーである株式会社セル

シードにより欧州治験が進行中である。この他、重症心不全治療を目的とした培養自己骨格筋芽細胞シート移植（阪大一外澤芳樹教授らとの共同研究）や内視鏡的粘膜ガン切除（ESD）後の人工食道潰瘍治療のための経内視鏡的培養自己口腔粘膜上皮細胞シート移植の臨床研究（東京女子医大消化器外科山本雅一教授、大木岳志助教らとの共同研究）、歯周病治療を目的とした培養自己歯根膜細胞シート移植の臨床研究（東京女子医大歯科口腔外科安藤智博教授、同先端生命研石川烈特命教授、岩田隆紀特任講師らとの共同研究）が進行中である。



講演される大和教授：平成24年7月12日（木）、千葉校舎第5教室

### ■第355回大学院セミナー開催

平成24年7月18日（水）午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第355回大学院セミナーが開催された。今回は慶應義塾大学医学部眼科学教室 坪田一男教授をお迎えして「iPS細胞が切り拓く新しい医学」と題した講演を伺った。

眼科領域ではすでに再生医療が臨床に応用され、視力を回復された方が多数存在する。各施設ごとにまちまちに行われてきたのが現状であるが、2007年に“ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針”が厚生労働省より出され、より安全で効果的な再生医療の実現が要求されてきた。我々はこの基準をクリアし角膜幹細胞を用いた再生医療を臨床応用している。角膜の再生において拒絶反応が大きな課題となっていたが、iPS細胞により一挙に問題が解決される可能性が出てきた。現在iPS細胞より角膜を上皮、実質、内皮の3層にそれぞれ分けて作り、角膜パーツ移植を行う方法を開発中である。すでに角膜パーツ移植は技術開発が終わり、実際にアイバンク角膜を用いた臨床

応用を始めている。iPSからの誘導も角膜上皮はほぼ完成し、今年中に動物実験を経て近い将来臨床応用を行う予定だ。

更にはiPS細胞の出現により治療方法がなかった重症ドライアイについても可能性が出てきた。まったく涙の出ないスチーブンス・ジョンソン症候群で涙を出させることができるように涙腺の再生という新しいチャレンジを開始したところである。またアンチエイジングに有効な運動をさせることにより、涙の分泌が上昇したという画期的な結果を得た。すなわちアンチエイジングからドライアイ治療までがつながったのである。iPS細胞は、数種類の山中因子により細胞レベルの若返りが可能なことを示している。個体レベルでの若返りはまだまだ先であるとしても、最近ではエイジングの研究が進み、アンチエイジング医学がサイエンスとして発展しつつある。iPS細胞はまさにこの究極のアンチエイジングと考えられており、研究者に現実味と夢を与えている。しかしアンチエイジングはそのインパクトから直観的表面的な側面だけでサプリメントを摂ることで寿命が延びると信じさせるような不都合な減少が起きており、これはNHKの番組にも認められていることを考えると、適切な教育は重要な課題である。

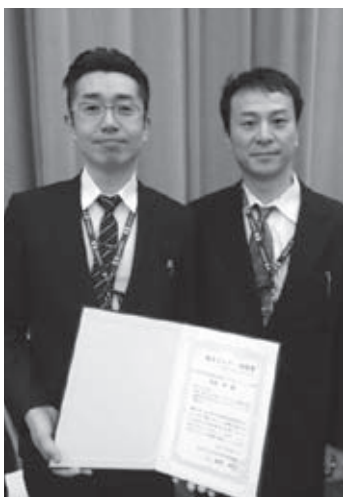


講演される坪田教授：平成24年7月18日（水）、千葉校舎第2教室

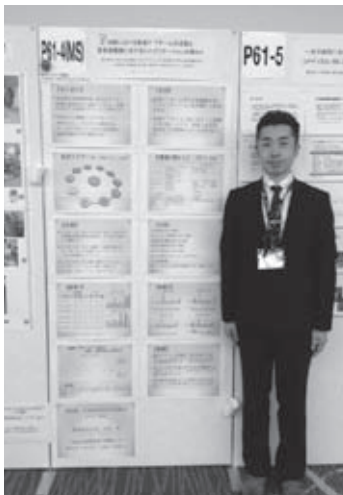
## トピックス

### ■堂前 伸主任理学療法士 第66回日本食道学会 学術集会にて優秀ポスター演題賞を受賞

平成24年6月21日(木)・22日(金)に長野県で開催された第66回日本食道学会学術集会において、市川総合病院リハビリテーション科の堂前 伸主任理学療法士が優秀ポスター演題賞を受賞した。今回受賞した演題は、「当院における食道ケアチームの活動と周術期管理に対するリハビリテーション科の関わり」であった。近年、チーム医療が脚光を浴びるようになり、コメディカルを含めた連携が目されている。そこで、食道ケアチームの介入前後で、離床までの期間および入院



受賞した堂前主任理学療法士(左)と佐藤道夫准教授(右)：平成24年6月22日(金)、軽井沢プリンスホテル

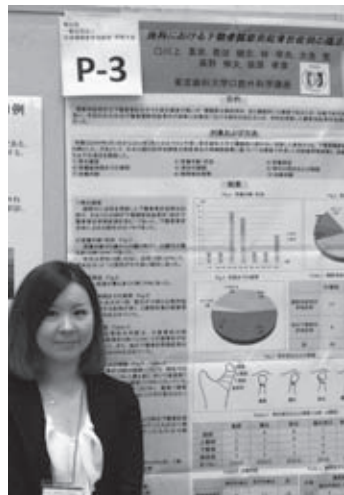


受賞した堂前主任理学療法士：平成24年6月22日(金)、軽井沢プリンスホテル

期間を比較し有効性を検討した。更にリハビリテーション科でのアセスメントの一つでもある6分間歩行テストに着目し、術前後を比較検討した結果、術前の歩行距離の約80%獲得で自宅復帰していることから、訓練効果判定と自宅復帰可能な体力回復の目安になることが示唆された。特に術前後の口腔ケア介入、早期離床などから合併症が減少し、入院期間の短縮につながったことを示し、食道ケアチームとしての活動が寄与していることが発表内容により評価された。今後も更により良いチーム医療を推進することが期待される。

### ■川上真奈レジデント 第25回日本顎関節学会 総会・学術大会にて優秀ポスター賞を受賞

平成24年7月14日(土)から15日(日)の期間にシャトレゼガトールキングダムサッポロにて行われた第25回日本顎関節学会総会・学術大会において、口腔外科学講座の川上真奈レジデントがポスター部門において優秀ポスター賞を受賞した。川上レジデントは「当科における下顎骨関節突起骨折症例の臨床的検討」の演題で発表を行った。関節突起骨折は下顎骨骨折の中でも発生頻度が高いが、顎関節は解剖学的、また機能的にも複雑であるため、治療方針の決定に苦慮することが多い。今回、下顎骨関節突起骨折の診断と治療法における検討を加えるため、当科を受診した関節突起骨折症例の臨床的統計的観察を行い、その報告



受賞した川上レジデント：平成24年7月14日(土)、シャトレゼガトールキングダムサッポロ

を行った。今後はさらに形態的治癒状態にも検討を行っていく予定である。顎関節突起骨折の治療方針の決定に際し、大いに期待される統計報告である。

### ■前田祐助初期臨床研修医 第67回日本消化器外科学会総会にて研修医企画セッション優秀演題賞を受賞

平成24年7月18日(水)から20日(金)までの3日間、富山市で開催された第67回日本消化器外科学会総会において、市川総合病院前田祐助初期臨床研修医が研修医企画セッション優秀演題賞を受賞した。受賞演題は、「胆嚢・総胆管・十二指腸瘻から十二指腸胆石イレウスと総胆管結石嵌頓を来した1例」である。

40歳代女性、2個の径30mmを越える大きな胆嚢結石が原因となり胆嚢体部と総胆管および十二指腸球部に連続する胆嚢・総胆管・十二指腸瘻を形成した珍しい症例である。結石がそれぞれ十二指腸と総胆管に落下したことで、十二指腸胆石イレウスと総胆管結石嵌頓を来した。画像、内視鏡検査で興味深い所見を呈し消化器内科にて診断の後、外科において胆嚢・総胆管切除、結石摘出、総肝管・十二指腸吻合術を施行した。

今回、外科学講座松井淳一教授の指導のもと、18日の研修医企画セッションにおいて口演発表し、19日夜富山城址公園で開かれた全員懇親会において表彰された。これまで胆嚢・総胆管・十二指腸瘻の報告は無く、今後論文報告を予定している。



受賞した前田研修医(左)と松井教授(右)：平成24年7月20日(金)、富山国際会議場

### ■女子野球ワールドカップ代表に直井友紀さん(第2学年)が選出!!

来る平成24年8月10日(金)から19日(日)まで、カナダ・エドモントンで開催される「第5回女子野球ワールドカップ」に本学第2学年直井友紀(なおいゆき)さんが、選出されました。

女子野球ワールドカップは、2004年から2年ごとに開催されており、カナダ・日本・米国・オーストラリア・台湾・キューバ・ベネズエラ・オランダの8カ国が参加し、日本は今回大会史上初の3連覇に挑みます。

直井さんは、代表選手20名に、外野手部門として選出されました。日頃は、千葉キャンパスで勉学に勤しみながら、埼玉県に拠点を置く「侍」という女子硬式野球チームで練習をしています。

去る7月24日(火)には、水道橋校舎5階学長室において、井出吉信学長から激励され、カナダでの活躍を誓いました。



井出学長(右)から激励をされる直井さん(左)：平成24年7月24日(火)、水道橋校舎5階学長室

## 学生会ニュース

### ■第44回歯学体結団式開催

第44回歯学体結団式が、平成24年7月10日(火)午後6時より、体育館2階アリーナに出場クラブが一堂に参集して行われた。

井出吉信学長から「日頃の練習の成果を発揮できるように自己管理をすることも大切なことです。各自ベストの状態に戦いに望んでください。」と挨拶をいただいた。続いて佐藤 亨学生部長から「今年の歯学体は、暑い九州を中心とした大会になるので熱中症等体調にはとくに気をつけて頑張ってください。」と挨拶を頂いた。

これを受けてバレーボール部主将岡澤亮平運動部長(4年)から挨拶があり、出場選手を代表して硬式野球部主将本多佑名君(4年)から力強い選手宣誓が行われた。その後、各クラブ主将から目標や意気込みが発表され、最後に参加者全員で校歌を斉唱して閉会した。

### ○選手宣誓

我々選手一同は日ごろの練習の成果を発揮し、東京歯科大学の名に恥じぬようフェアプレーとスポーツマンシップで精一杯戦うことを誓います。

平成24年7月10日 硬式野球部主将 本多佑名



選手宣誓をする硬式野球部主将本多君：平成24年7月10日(火)、千葉校舎体育館

## 図書館から

### ■夏の文献検索講習会開催

春・夏・秋の連続企画として、夏の文献検索講習会「コクランライブラリー講習会」「PubMed講習会」を開催した。コクランライブラリー講習会は、平成24年7月4日(水)午後6時より、千葉校舎第1教室において、ワイリージャパン・笠原裕治氏を講師にお迎えし、実施した。当日参加者は21名であった。コクラン共同計画で作成されたシステムティックレビューやデータベースの概要



コクランライブラリー講習会風景：平成24年7月4日(水)、千葉校舎第1教室

についてご説明いただいた。

PubMed講習会は、平成24年7月12日(木)午後6時より、図書館グループ学習室において、サンメディア・前田亜寿香氏を講師にお迎えし、実施した。当日参加者は4名であった。PubMedを用いた医学文献の効率的な検索方法をPCを用いた実習形式で行った。PubMedの多くの機能に興味を持ってもらえたことをアンケート結果から確認できた。

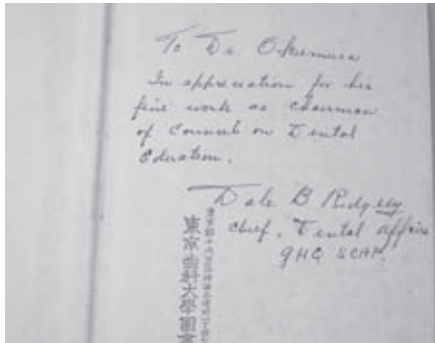


PubMed講習会風景：平成24年7月12日(木)、千葉校舎図書館2階 グループ学習室

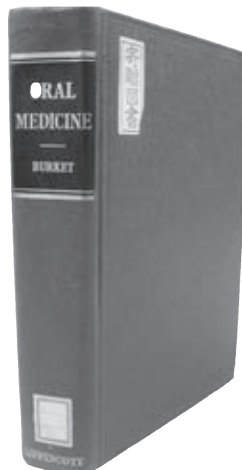
## ■所蔵資料の紹介

Dale B. Ridely から奥村鶴吉先生に寄贈された図書(1950年4月5日寄贈)

花澤文庫の資料整理中に、Ridgely から奥村先生に贈られたサイン入り図書 *Burket, LW: Oral Medicine, Philadelphia, 1946* が見つかった。GHQ



Ridgelyから奥村先生に贈られたサイン



「Oral Medicine」寄贈図書



寄贈図書の標題紙

公衆衛生福祉局 Ridgely 中佐は、戦後の歯科の医療改革に携わり、奥村先生とともに、歯科医学教育体制の確立、専門学校から大学昇格にむけて大きな役割をはたしている。(120周年記念誌92～94ページ参照)

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 千葉校舎・千葉病院

- 公立大学法人 埼玉県立大学(教員2名、学生30名)  
平成24年7月2日(月)解剖実習室、解剖標本室、千葉病院
- 大宮歯科衛生士専門学校(教員2名、学生46名)  
平成24年7月19日(木)解剖学教室、千葉病院
- 太陽歯科衛生士専門学校(教員3名、学生83名)  
平成24年7月23日(月)微生物学実習見学

### ■海外出張

- ピッセン宮島弘子教授(水病・眼科)  
アジア太平洋白内障屈折手術学会 (Asia-Pacific Association of Cataract and Refractive Surgeons) に座長として参加のため、平成24年6月1日(金)から2日(土)まで中国・上海へ出張。
- 齋藤 淳教授、勢島 典助教(歯周病学)、石塚洋一助教(衛生学)  
第7回ヨーロッパ歯周病学会 (7th Conference of the European Federation of Periodontology) に参加、および発表のため、平成24年6月4日(月)から11日(月)までオーストリア・ウィーンへ出張。
- 渋川義宏准教授(水病・口腔健康臨床科学)  
第7回ヨーロッパ歯周病学会 (7th Conference of the European Federation of Periodontology) に参加、お

よび発表のため、平成24年6月5日(火)から11日(月)までオーストリア・ウィーンへ出張。

- 阿部伸一教授(解剖学)  
台北医学大学口腔医学院(台湾)および延世大学(韓国)において講義を行うため、平成24年6月5日(火)から9日(土)まで台湾・台北、韓国・ソウルへ出張。
- 小坂橋俊哉教授(市病・麻酔科)  
2012年度ヨーロッパ麻酔学会に参加、および Draeger Scientific/Product Conference に出席、研究発表のため、平成24年6月9日(土)から14日(木)までフランス・パリへ出張。
- 桑内亜紀助教(市病・麻酔科)  
2012年度ヨーロッパ麻酔学会に参加、および発表のため、平成24年6月9日(土)から14日(木)までフランス・パリへ出張。
- 山添真治助教(市病・放射線科)  
International Conference on Complications in International Radiology 2012 (ICCIR2012) に参加、および演題発表のため、平成24年6月13日(水)から17日(日)までオーストリア・クラゲンフルトへ出張。
- 大前祥子助教(市病・耳鼻咽喉科)  
24th Congress of the European Rhinologic Society and 31st International Symposium of Infection & Allergy of the Nose に参加、および発表のため、平成24年6月16日(土)から24日(日)までフランス・

トゥールーズへ出張。

- 半田俊之講師(水病・口腔健康臨床科学)  
IADR General Sessionに参加、および発表のため、平成24年6月16日(土)から25日(月)までブラジル・イグアスへ出張。
- 末石研二教授(歯科矯正学)  
第88回ヨーロッパ矯正学会 (Congress of European Orthodontic Society) に参加、および発表のため、平成24年6月17日(日)から25日(月)までスペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラへ出張。
- 中村 瞬大学院生(歯科麻酔学)  
第90回国際歯科研究学会議(IADR2012)に参加、および発表のため、平成24年6月16日(土)から25日(月)までブラジル・イグアスへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長、青木 大コーディネーター (角膜センター)  
アメリカ アイバンク協会年次総会 (EBAA) 参加、およびWHO細胞組織コーディネーティング化並びに監視システムについての検討会議出席のため、平成24年6月19日(火)から28日(木)までアメリカ・ハリウッド、ニューヨークへ出張。
- 茂木悦子准教授(歯科矯正学)  
The 3rd San Antonio Meeting in Kosiceに出席、10th International Symposium on History of Medicine, Pharmacy and Veterinary Medicineにおいて口頭発表のため、およびClinics of Stomatosurgery, Medical School of Comenius University, Bratislava, Slovakia 訪問のため、平成24年6月22日(金)から7月2日(月)までスロバキア・コンツェ、ブラチスラヴァへ出張。
- 新谷誠康教授、今井裕樹講師、山下治人助教(小児歯科学)  
第一回中国小児歯科国際ワークショップに参加、および発表のため、平成24年6月29日(金)から7月1日(日)まで中国・西安へ出張。
- 上田貴之准教授(有床義歯補綴学)  
Dental Technology Advancements 2012 Asia Pacific Dental Leader Meetingに参加、および発表、ベルン大学補綴科との研究打ち合わせのため、平成24年7月7日(土)から16日(月)までドイツ・ミュンヘン・シーフェルドへ出張。

- 遠藤隆行講師(生理学)  
第8回Forum of European Neuroscienceにおいて発表を行うため、平成24年7月12日(木)から20日(金)までスペイン・バルセロナへ出張。
- 武井 泉教授(市病・内科・糖尿病・内分泌センター)  
IFCC,NGSP (HbA1c標準化) 会議出席、打ち合わせのため、平成24年7月13日(金)から19日(木)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)  
第24回The Transplantation Society (TTS 国際移植学会) 国際会議出席、およびWHO移植課 (ジュネーブ) 訪問、打ち合わせのため、平成24年7月15日(日)から21日(土)までドイツ・ベルリン、スイス・ジュネーブへ出張。
- 松久保 隆教授(衛生学)  
延世大学予防歯科学講座との研究打ち合わせのため、平成24年7月22日(日)から24日(火)まで韓国・ソウルへ出張。
- 佐野 司教授(歯科放射線学)  
ロチェスター大学にて姉妹校締結に関する会議、打ち合わせ、および理事長代理にてAlliance for Oral Health Across Bordersの Dialogue and Leadership Training Sessionに参加、打ち合わせのため、平成24年7月23日(月)から30日(月)までアメリカ・ロチェスター、ニューヨークへ出張。
- 西井 康助教(歯科矯正学)  
University of Southern California School of Dentistry との共同研究打ち合わせ、およびRichard Malauglin Education Faculty Eventへの招待参加のため、平成24年7月24日(火)から30日(月)までアメリカ・ロサンゼルス、ソルトレイクシティへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)  
Spine Across the Sea (日米合同脊椎外科学会) にて発表のため、平成24年7月29日(日)から8月5日(日)までアメリカ・ハワイ州カウアイ島へ出張。
- 二宮 研助教(市病・整形外科)  
Spine Across the Sea (日米合同脊椎外科学会) にて発表のため、平成24年7月27日(金)から8月2日(木)までアメリカ・ハワイ州カウアイ島へ出張。

# 大学日誌

## 平成24年6月

- 1 (金) 平成24年度定期健康診断実施[5/28 ~]  
防火・防災安全自主点検日
- 2 (土) 第293回東歯学会(例会)  
平成25年度第1回看護職員採用選考試験(市病)
- 4 (月) 臨床研修管理小部会
- 5 (火) 6年生第1回総合学力試験(~6日)  
[於:水道橋校舎]  
2・3年生健康診断
- 6 (水) リスクマネージメント部会

- 6 (水) ICT会議  
輸血療法委員会  
臨床検査部運営委員会  
臨床検査運営委員会(市病)  
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 7 (木) 1年生健康診断  
第349回大学院セミナー  
前期健康診断[~13日](市病)  
感染制御委員会(市病)
- 8 (金) 総合講義検討委員会  
ICLS講習会(市病)



8 (金)	ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	26 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 医療サービスに関する検討会 医療廃棄物委員会(市病)
11 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会	27 (水)	糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
12 (火)	医療安全研修会 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会	28 (木)	第352回大学院セミナー 部長会(市病) 管理診療委員会(市病)
13 (水)	大学院運営委員会 大学院研究科委員会 救急委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病)	29 (金)	全体課長会[於：市川](市病)
14 (木)	カルテ指導委員会 千葉校舎課長会 業務連絡会 第350回大学院セミナー 高度・先進医療委員会 午後のリサイクル(市病) 手術室運営委員会(市病)	<b>平成24年7月</b>	
15 (金)	実験動物供養祭[於：千葉校舎] 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日	2 (月)	振替授業(木曜日分) 臨床研修管理小部会 防火・防災安全自主点検日 教務部(課)事務連絡会
16 (土)	全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会 父兄会定時総会 全学生の保護者に対する大学からの修学指導方針の説明 各学年の学年主任・クラス主任による保護者に対する説明 修学指導関係者・父兄個別面談会 歯科衛生士専門学校学校説明会 患者サロン(市病)	3 (火)	リスクマネージメント部会 ICT会議 第4学年HBワクチン接種 コクランライブラリー講習会 理事会(法人) 口腔健康臨床科学講座会(水病)
17 (日)	緩和ケア研修会(市病)	4 (水)	第353回大学院セミナー 感染制御委員会(市病) 平成25年度歯科医師臨床研修病院説明会(本学6年生・既卒者対象) [於：千葉校舎]
18 (月)	学生部(課)事務連絡会 医療連携委員会 第114回歯科医学教育セミナー	5 (木)	水道橋病院4階口腔外科診療室完成式 水道橋病院3階高度歯科医療センター・口腔インプラント科完成式 臨床研修歯科医OSCE(水病)
19 (火)	医療安全管理委員会(市病)	6 (金)	入試ガイダンス[於：水道橋校舎]
20 (水)	新入生学外セミナー[～22日] 衛生委員会 機器等安全自主点検日 褥瘡対策委員会(市病) CPC(市病)	7 (土)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会
21 (木)	第351回大学院セミナー 診療録指導委員会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	8 (日)	粗大ゴミの廃棄[～12日]
22 (金)	学部学生新入生オリエンテーション(市病) 災害対策実施部会(市病)	9 (月)	振替授業(金曜日分) 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 第44回全日本歯科学学生総合体育大会結団式 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 薬事委員会(市病)
24 (日)	緩和ケア研修会(市病)	10 (火)	1～4年生夏期休暇[～8/31] 基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 図書委員会 リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)
25 (月)	電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス(市病) 教職員研修会(水病)	11 (水)	カルテ指導委員会 千葉校舎課長会 業務連絡会
		12 (木)	

12 (木)	第354回大学院セミナー Pub Med講習会 ICLS講習会(市病) 手術室運営委員会(市病)	24 (火)	科学研究費使用ルール説明会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 給食委員会(水病)
13 (金)	ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	25 (水)	衛生委員会 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
14 (土)	歯科衛生士専門学校1・2年生夏期休暇 [~ 8/31]	26 (木)	歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇 [~ 8/30] 歯科衛生士専門学校学校説明会 部長会(市病)
17 (火)	環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 医療安全管理委員会(市病)	27 (金)	災害対策実施部会(市病)
18 (水)	蔵書点検(臨時閉館)[~ 20日] 第355回大学院セミナー CPC (市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	28 (土)	入試ガイダンス[於：水道橋校舎] 第29回カリキュラム研修ワークショップ (第1日目)[於：さいかち坂校舎] 第29回カリキュラム研修ワークショップ (第2日目)[於：さいかち坂校舎]
19 (木)	医療連携講演会 診療録指導委員会(水病)	29 (日)	電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス(市病)
20 (金)	機器等安全自主点検日	30 (月)	
21 (土)	患者サロン(市病)		
23 (月)	教職員研修会(水病)		

## 平成25年度東京歯科大学入学試験要項

### 推薦入学選考(一般公募制)

**募集人員** 約45名(指定校制推薦を含む)  
(全募集人員128名中)

(趣旨)

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

(出願資格)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成24年3月高等学校卒業者または平成25年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

**選考内容**

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
- (3) 面接

**出願期間**

平成24年11月1日(木)から平成24年11月6日(火)  
(期間内必着のこと)

**選考日・選考会場**

選考日 平成24年11月10日(土)

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18
  - 2) 大阪会場 天満研修センター  
大阪市北区錦町2-21
  - 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター  
福岡市中央区天神2-14-8  
福岡天神センタービル8階

**合格通知日**

平成24年11月13日(火)

**入学手続**

平成24年11月15日(木)から平成24年11月26日(月)  
正午まで

### 帰国子女・留学生特別選抜

**募集人員** 若干名(全募集人員128名中)  
(趣旨)

帰国子女または日本に留学しようとする外国籍

を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

(出願資格)

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成25年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成25年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成25年3月31日までに18歳に達する者。

#### 選考内容

次の試験を日本語で行う。

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
- (3) 面接

#### 出願期間

平成24年11月1日(木)から平成24年11月6日(火)  
(期間内必着のこと)

#### 選考日・選考会場

選考日 平成24年11月10日(土)

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18
  - 2) 大阪会場 天満研修センター  
大阪市北区錦町2-21
  - 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター  
福岡市中央区天神2-14-8  
福岡天神センタービル8階

#### 合格通知日

平成24年11月13日(火)

#### 入学手続

平成24年11月15日(木)から平成24年11月26日(月)

正午まで

### 編入学試験A

募集人員 若干名

(編入年次)

第2学年4月に編入

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

- ①4年制大学卒業者または平成25年3月卒業見込の者
- ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者  
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・  
歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・  
作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者  
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち  
数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

#### 試験内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト(英語・数学・理科の基礎知識問題)
- (3) 面接(グループ面接・個人面接)

※学士等特別選抜Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

#### 出願期間

平成24年11月1日(木)から平成24年11月6日(火)  
(期間内必着のこと)

#### 試験日・試験会場

試験日 平成24年11月10日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18

#### 合格通知日

平成24年11月13日(火)

#### 入学手続

平成24年11月15日(木)から平成24年11月26日(月)  
正午まで

**編入学試験B****募集人員** 若干名

(編入年次)

第2学年4月に編入

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成25年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

**試験内容**

(1) 小論文

(2) 小テスト(英語・数学・理科に関する基礎学力テスト)

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。

(3) 面接(グループ面接・個人面接)

※学士等特別選抜Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

**出願期間**

平成25年2月19日(火)から平成25年3月5日(火)

(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

**試験日・試験会場**

試験日 平成25年3月9日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18**合格通知日**

平成25年3月12日(火)

**入学手続**

平成25年3月13日(水)から平成25年3月21日(木)

正午まで

**学士等特別選抜A****募集人員** 若干名(全募集人員128名中)

(入学年次)

第1学年4月に入学

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成25年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

**試験内容**

(1) 小論文

(2) 小テスト(英語・数学・理科の基礎知識問題)

(3) 面接(個人面接)

※編入学試験Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

**出願期間**

平成24年11月1日(木)から平成24年11月6日(火)

(期間内必着のこと)

**試験日・試験会場**

試験日 平成24年11月10日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18**合格通知日**

平成24年11月13日(火)

**入学手続**

平成24年11月15日(木)から平成24年11月26日(月)

正午まで

## 学士等特別選抜B

募集人員 若干名（全募集人員128名中）

（入学年次）

第1学年4月に入学

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成25年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

### 試験内容

(1) 小論文

(2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト）

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。

(3) 面接（個人面接）

※編入学試験Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

### 出願期間

平成25年2月19日（火）から平成25年3月5日（火）  
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

### 試験日・試験会場

試験日 平成25年3月9日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18

### 合格通知日

平成25年3月12日（火）

### 入学手続

平成25年3月13日（水）から平成25年3月21日（木）

正午まで

## 一般入学試験（I期）

募集人員 約50名（全募集人員128名中）

### 試験内容

(1) 学力試験

①外国語（英語:英I、英II、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションI,IIに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。）

②数学（数学:数I、数II、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。）

③理科（物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。）

・物理:物I、物II [ただし、学習指導要領に示された物理IIのうち以下のものを除く

「(3) 物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、

「(4) 原子と原子核」]

・化学:化I、化II

・生物:生I、生II [ただし、学習指導要領に示された生物IIのうち以下のものを除く

「(3) 生物の集団」]

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験（I期）を併願する者は、一般入試（I期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（I期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

### 出願期間

平成24年12月17日（月）から平成25年1月28日（月）  
（郵送の場合、必着）

（平成24年12月28日（金）から平成25年1月4日（金）の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

### 試験日・試験会場

試験日 平成25年2月2日（土）

試験会場 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18

2) 大阪会場 天満研修センター

大阪市北区錦町2-21

- 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター  
福岡市中央区天神2-14-8  
福岡天神センタービル8階

**合格発表日**

平成25年2月6日（水）

**入学手続**

## 1. 入学金

平成25年2月7日（木）から平成25年2月14日（木）  
正午まで

## 2. その他の諸経費

平成25年2月7日（木）から平成25年2月20日（水）  
正午まで**大学入試センター利用試験（Ⅰ期）****募集人員** 13名（全募集人員128名中）**出願資格**

平成25年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

**試験内容**

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数 学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理 科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

## (2) 小論文

## (3) 面接

※一般入試（Ⅰ期）を併願する者は、一般入試（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

**出願期間**平成24年12月17日（月）から平成25年1月28日（月）  
（郵送の場合、必着）  
（平成24年12月28日（金）から平成25年1月4日（金）の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）**試験日・試験会場**

試験日 平成25年2月2日（土）

- 試験会場 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18  
2) 大阪会場 天満研修センター  
大阪市北区錦町2-21

- 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター  
福岡市中央区天神2-14-8  
福岡天神センタービル8階

**合格発表日**

平成25年2月6日（水）

**入学手続**

## 1. 入学金

平成25年2月7日（木）から平成25年2月14日（木）  
正午まで

## 2. その他の諸経費

平成25年2月7日（木）から平成25年2月20日（水）  
正午まで**一般入学試験（Ⅱ期）****募集人員** 約15名（全募集人員128名中）**試験内容**

(1) 学力試験（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）と同様とする。）

①外国語（英語）

②数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

**出願期間**平成25年2月19日（火）から平成25年3月5日（火）  
（郵送の場合、必着）  
（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）**試験日・試験会場**

試験日 平成25年3月9日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18**合格発表日**

平成25年3月12日（火）

**入学手続**平成25年3月13日（水）から平成25年3月21日（木）  
正午まで

**大学入試センター利用試験（Ⅱ期）**

**募集人員** 5名（全募集人員128名中）

**出願資格**

平成25年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

**試験内容**

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

**出願期間**

平成25年2月19日（火）から平成25年3月5日（火）  
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

**試験日・試験会場**

試験日 平成25年3月9日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋本館校舎  
千代田区三崎町2-9-18

**合格発表日**

平成25年3月12日（火）

**入学手続**

平成25年3月13日（水）から平成25年3月21日（木）  
正午まで

**<学納金> …… 全入試制度共通**

入学金	600,000円	(入学時のみ)
授業料	3,500,000円	
歯学教育充実費	4,300,000円	(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000円	
合計	9,400,000円	

### 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二 椎名 裕  
新谷益朗 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博  
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹  
（平成24年7月現在）



#### 編集後記

Elective Study Programに選ばれた学生達が、井出学長と矢崎同窓会会長のお二人から、同級生の前でこやかに表彰されました。1年生から6年生までの各学年を勉学の面で引っ張っていく仲間から選ばれた13名のメンバー。台北医学大学やアルバータ大学でのさまざまな人たちとの国際交流を通して、どんな感性を磨いてくれるのでしょうか。若い時の海外でのひとつの経験や出会いが、将来の方向性を決めてしまうことだってあるはず。プログラムに参加するひとり一人の人生に小さな種が蒔かれました。

水道橋病院で、モダンで清潔感のある口腔外科診療室と高度歯科医療センター・口腔インプラント科が動き始めました。1年後には、登院した学生たちや研修医が、先輩たちに励まされながら、水道橋病院の新しいフロアで忙しく走り回っているでしょう。

神田駿河台。さいかち坂校舎の8階から眺める夕暮れの東京のスカイラインには、東京ドームが大きく映し出されます。ペランダからは、足下を流れる神田川と、絶え間なく行き交う中央線のオレンジ色と黄色の通勤電車。朝夕のラッシュアワーのカラフルな装いのひとの流れと街の喧騒が、新入生達の日常となりました。坂の下では、白と鮮やかなオレンジいろのクレーンをあたまに載せた水道橋新校舎の太い鉄骨が、地上高く建ち上がります。



「夕暮れの水道橋のスカイライン」

神田川の向こうに東京ドームの白い屋根が輝きます。あたらしい、さいかち坂の風景。この校舎で、これからどんな物語が重ねられて行くのでしょうか。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）